



図書館だより

●熟読のすすめ

——専攻分野の学習と図書館の活用——

図書館長・法学部教授 辻 伸行

●教えて! ソフィアンくん

～レファレンスカウンターでできることあれこれ～

●7・8・9 階フロア引越しのご案内

●今日の本棚 国際教養学部国際教養学科図書選定委員/国際教養学部
Associate Professor, Faculty of Liberal Arts

Bettina Gramlich

●豆知識 目を大切に!



熟読のすすめ ——専攻分野の学習と図書館の活用——

図書館長・法学部教授

辻 伸行



大学図書館は、いうまでもなく、学生や教職員の研究・教育のための情報を提供することを主たる目的としているが、それとともに、学生の学習の場を提供するところでもある。上智大学の図書館も、他の大学図書館と同様に、デジタル化が進んでいるし、また、プレゼンテーションの準備やグループ学習支援のためにラーニング・コモンズやグループ学習室などを用意して学生のニーズに応え、より使い勝手のよい施設を目指している。とはいえ、大学図書館が各自の専攻分野を深く理解するために教科書や専門書などをひとり静かに読み進める場であることは、昔も今も変わらないであろう。

ところで、最近の学生は、ひとりであることが不安で、いつも仲間とつながっていないと落ち着かないというものが多くと聞く（本当のところは、自分がひとりぼっちであると他人から見られることが不安であるということなのかもしれない）。ともあれ、大学では、しばしひとりになって本と向き合うことを強く勧めたい。

私の専門は法律学であるが、体系書や専門書、あるいは専門雑誌掲載の論文など、その内容は決して易しいものではない。文字を追いつつながらじっくりと読み進め、ときには戻って読み直しながら理解を深めて行くという、かなり忍耐のいる作業が要求される。このようにしてひとり黙々と読み進めること、すなわち、熟読することを教員はだれでも行っていることであるし、学生にも要求されることであろう。この過程を経ることが論文執筆の前提であるし、学生がゼミ論やレポートを書く際にも必須の作業として求められる。また、教科書や参考文献を熟読することは日々行われる授業内容を深く理解する助けとなることはいふまでもない。

今大学では教育や学習の質が問われ、その向上が求められている。各学部・学科あるいは大学院各研究科・専攻は、教育研究上の目的や人材養成の目的を明確化し、それに沿ってカリキュラムを改善したり、授業方法の工夫などを行っている。このようにして、学生にとって学

習しやすい環境がソフトの面と前述のハードの面からいつつあるということが出来るが、学習の主役は学生身なのであるから、「自ら学ぶ」という姿勢は最近とく強く求められているといえよう。すなわち、近ごろ、育の充実ということから、双方向授業や多方向授業、あるいは反転授業が話題になっており、すでに行われている授業科目もある。これは、学生が積極的に授業に加し、教員の質問に答えたり、意見を述べ、ときには生同士の討論を通じて理解を深めようとするものである。学習の質向上や思考能力や表現力の向上には有効な方法であろう。もっとも、その一部は、昔から「演習」という科目で実践されてきたものであるが、その質と量のいっそうの充実が求められるということである。このような授業方法がうまく機能するためには、学生が授業の準備をして授業に臨むことが不可欠である。授業で知識や理解が不十分なまま意見を述べたり、その時々思いついたこと述べるというのでは、授業に積極的に加したという充実感は得られるかもしれないが、言い換えれば、聞き放しで終わることになり、この授業方法の目的を達することはできない。授業に参加する学生は、テーマに関する参考文献を十分に読み込んで内容を理解し、さらには、出来れば自分の考えをまとめておく必要がある。そのためには、ひとり机に向かって参考書や専門書などを熟読しなければならない。ときには難解な専門書であるため、必読文献とされた書物であるにもかかわらず、挫折しそうになるかもしれない。幸い上智大学の図書館は、ほとんどが開架式であるので、関連する文献をすぐに手に入れて読むことが出来るから、ある文献を読んでつまづいたら、それを補ってくれる関連文献を探し出し、それを手にとって読んでみよう。また、同様のテーマに取り組んでいる仲間と意見交換や議論したり、あるいは疑問点を明確にした上で教員に尋ねるとよい。そして、また、ひとり静かに読み進めるのである。専攻分野の理解が進んでくれば、以前かなり難しいと感じていたものでも、再度読んでみるとはるかに多くの内容を読み取ることが出来るはずである。

大変に苦勞の多いことと思うが、何事も楽をして果を得ることはまず出来ないと考えた方がよい。人間は楽いもので、つい楽をしようと安易な方向に流れるものがあるが、じっと我慢してチャレンジ精神を沸き立たせ、基本文献となっている書籍などの読破に挑戦してほしい。読み終わった後の達成感・満足感は苦勞した者しか得られないものである。



教えて! Q&A ソフィアンくん



～レファレンスカウンターでできることあれこれ～

上智大学のことなら何でも知っているソフィアンくんが、図書館のいろんな疑問に答えるこのコーナー。

第1回は、レファレンスカウンターを取り上げます。



図書館に入ると右手に見えるレファレンスカウンター。
皆さんは、ここでどのようなサービスが受けられるか知っていますか?
今回は、レファレンスカウンターでのサービスを知ってもらうために、
僕が皆さんの質問に答えます!



Q. 課題が出ているのですが、資料の探し方がわかりません。



Q. レポートを書くための論文を探しているのですが、どのデータベースを使ったらいいのでしょうか?

A. そんなときこそレファレンスカウンターに相談に行かなくちゃ!
レポート作成の最初の関門は資料集め。ここで躓いていたら時間ももったいないよ。レファレンスカウンターは、利用者の皆さんの質問や相談を受け、必要な資料や情報を入手できるよう、手助けをしてくれるところなんだ。
一人で悩んでいないで、まずは相談!



Q. 貸出中の本の予約ができるって本当?

A. うん、オンラインサービスのことだね。
「貸出中の本を予約したい」、「配送サービスを利用して、他のキャンパスにある本を送ってほしい」、「今借りている本の貸出期間を延長したい」、…これら全てのことができる便利なオンラインサービスは、レファレンスカウンターで申込みができるよ。
ただし、申込んだ翌日からの利用になるので注意してね!





Q. 探している資料が図書館
にありません。



A. どうしても読みたい本が図書館にないとき、とっても困るよね。
そんなときにはレファレンスカウンターで次の4つの申込みができるよ。

1



他大学への紹介状の発行

CiNii Books (大学図書館の資料を探索するデータベース) で読みたい資料を所蔵している大学を見つけたら、訪問利用することができるんだ。ただし、その場合には、必ず紹介状が必要だよ。相手館への確認が必要なので、訪問したい日の数日前までに申込んでね!

図書 の 貸 借

CiNii Booksで探したけれど、訪問することができない場合には、図書資料に限り、貸出して送ってもらうことができるんだ(注1)。

ただし、往復の送料は申込者の負担になるよ。

本が届くの1週間ほどかかるので、急いで読みたいときには注意が必要。借りた本は家に持ち帰ることはできず、図書館内での利用になることも覚えておいてね(注2)!



2

注1: 東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県にある図書館の蔵書は除く。
注2: 貸出期間は相手館によって異なります。

3



文献複写

読みたい論文または図書の一部が特定できる場合には、資料を所蔵している図書館にコピーを依頼することができるよ。

この場合、コピー代金と送料を申込者が負担すること、到着までに1週間ほど(海外の場合には1ヶ月ほど)かかることを忘れないでね!

購入希望

「卒論で使うのに必要」「レポートを書くのに使いたい」など、図書館に入れて欲しいと思う図書があれば、購入希望を出すことができるんだ(学生のみ)。レファレンスカウンターで申込み用紙に記入をしてね。そのとき、CiNiiの検索結果画面を印刷してくれるのも忘れずに!

※必ず購入を約束するものではないこと、購入することが決まっても借りられるまでに1ヶ月ほどかかることに注意。



4

協定校については別に取り決めがあるので、図書館HPで確認してね。
HOME > 研究情報・図書館 > 図書館 > サービス案内 > レファレンスカウンター
<http://www.sophia.ac.jp/jpn/research/lib/service/ref>
2と3について、教職員はオンラインでの申込みが可能です。



～レファレンスカウンターを利用するにあたって～

レファレンスカウンターで相談するときには、スタッフとのやりとりがとても重要です。時には、スタッフから質問することもあります。

それは、皆さんが探していることを的確に把握し、提供するためです。だからといって、難しく考える必要はありません。

何について調べようとしているのか、自分でこんな風に調べたけれど、うまく見つけられなかったなど、ありのままを伝えてもらえればいいのです。わからないときには、どこがどんなふうわからないのかを伝えてもらえるだけでも、大切な手がかりとなります。

課題の答えを教える場ではありませんが、皆さんが必要な情報や資料を手にするまでの道案内をすることがレファレンスサービスの役割のひとつです。

ここで紹介した以外にも、レファレンスカウンターで
受けられるサービスはあります。
効果的に利用して、
学習や研究に役立ててくださいね!



「教えて! ソフィアンくん」のコーナーでは、図書館利用に関する皆さんの質問を募集しています。こんなことを取り上げてほしいというものがありましたら、下記の質問用紙に記入の上、図書館レファレンスカウンターに設置してある「声」のBOXまで。またはE-Mailでの質問も受付けます。件名に「教えて! ソフィアンくん」、本文に所属、学籍番号、氏名、メールアドレスを明記の上、下記メールアドレスまでご連絡ください。

lib-info@sophia.ac.jp たくさんの質問をお待ちしております!

※文献調査のような個別の相談の受付ではありませんので予めご了承ください。

✂ 切り取り線 ✂

「教えて! ソフィアンくん」質問用紙

所属: _____ 学籍番号: _____ 氏名: _____

E-Mail: _____

質問事項 _____



夏休みに9階が書庫になりました! 7階・8階の図書が一部引っ越しました。 8階は哲学・宗教充実フロアへ

夏休み中に9階に書庫ができました!
7階・8階の図書の一部がお引っ越ししています。
OPAC等の表示・地図も新しくなっていますので確認して下さい。





今日の本棚

国際教養学部国際教養学科図書選定委員 / 国際教養学部准教授
Associate Professor, Faculty of Liberal Arts
Bettina Gramlich-Oka



最近の記念行事や節目の年といったものが、私の本棚に静かな足跡を残している。

昨年、本学は創立100周年を迎えた。祝典が済んだ今もなお、中央図書館1階には、往年のキャンパスの様子、またそこを行き交う人々の生き生きとした姿の収められた写真が展示され、本学の歴史を間近に感じることができる。本学の過去と現在を繋ぐもの、それは、当たり前のように、本学が存在する目的である高等教育の実施と推進に他ならない。しかし、21世紀において、高等教育はどのような形を取るべきなのか。東京に位置する大学として、いかなる目標に向かうべきか。本学に入学した学生たちが、それぞれの学部・研究科で受けることのできる教育とは、どうあるべきなのか。100周年記念を機に、これらの問いにあらためて思いを巡らせた。

そこで近ごろ手に取ったのが、Michael S. Rothの著書*Beyond the University: Why Liberal Education Matters* (Yale University Press, 2014年)である。私の専門とする歴史学の観点からというより、教育者としての立場から読んだ。同書は、人文科学が危機に瀕しているとされる現在の状況を踏まえた上で、教養教育の重要性を解き明かす、という内容である。

高等教育を圍う危機感とは、ニューヨーク・タイムズ、ハフィントン・ポスト、*The Chronicle of Higher Education*などに掲載された報道記事、データ、論説の数々をも根拠として高まっている。多数の記事が共通して指摘するのは、大学中退者数の増加、学生ローンの重い負担、就職率の低下などである。昨今の米国の大学におけるこのような状況の主要因として、経済危機が挙げられることが一般的だが、米国大学においては、対応の仕方について、大学職員側と教員側とで意見が割れていることが多いという。

まず、一方では、大学教育の使命を、職場で有用となる人材の育成に見出す考えがある。この見解に拠れば、授業はキャリア・実用重視の方向性を強化し、大学は、専門技能を含めた市場価値の高い能力を培うための場、またそのような能力の取得を促進するための機関とならなければならない。しかし他方では、大学の歴史的成り立ちについてよく理解した上で、現代への適応方法を策定すべきだ、とする考えもある。この見解のもとでは、現在、デジタル機器の活用方法などを始め、新しい教授法について様々な意見が交わされている。MOOC (Massive Open Online Courses) やその日本版、MOOC (日本オープンオンライン教育推進協議会) を巡る最近の議論もその一例である。

著者のMichael Roth自身は、大学職員と教員の中間を取る見解を示す。Rothは米国ウェズリアン大学の現役学長を務める人物であり、教養教育 (Liberal Education) が米国における学士課程の根幹を成すとの信念を貫きながらも、大学を実際に運営する上では、十分な予算の確保がどれほど重要であるかも認識している。Rothは、教養教育史をトーマス・ジェファソンからリチャード・ローティまで概説した上で、大学は「幅広く、自己批判的で、且つ実践的な教育」を提供すべきと結論づけ、教養教育とは「学生たちに、制約を打ち破り、行動を起こし、互いに力を合わせ、挑戦し合

うことを教え、疑念・発想力・努力によって、自己や社会を作り変えていくことが実際に可能であることに気付かせる」ものでなければならない、と記している (Roth, 195頁)。このような教育は、学生たちが大学卒業後に就く職場、また人生全般において活躍するための大切な糧となるはずである。

本学の沿革や所在地を考慮すると、米国の大学とは状況が異なる面も少なくないが、大学の商業化に対する賛否両論は、やはり本学においても存在するといえよう。テクノロジーの活用を例にとっても、テクノロジー自体は学習を進めも妨げもしないものであるにもかかわらず、教育上いかなる利用法が最適であるかについては意見が分かれている。Rothの著書は、教員や大学職員だけでなく、学生たちにもお勧めしたい一冊である。本学の学部生たちも、本書を読むことで、自身の受けている高等教育の意義や、本学での在籍期間を有効活用する方法などについて考えを巡らせることができる。また、教員・学生間の意見交換を更に促進することのできる一冊といえる。

同じく私の書棚に収まる本で、この機会に紹介しておきたいのは、私の専門領域である歴史学により直結した内容を持つものである。今年は第一次世界大戦の開戦100周年に当たるが、Christopher Clark著、*The Sleepwalkers: How Europe Went to War in 1914* (ロンドン: Penguin Books, 2012年)は、世界が大战に巻き込まれていった様子を緻密に描き切った名著である。Clarkが提示するのは、開戦に「一つの主因」を求めるのではない。「多中心で、相互作用を重視した原因論」(Clark, 2013年10月10日)である。Thomas Lacquerの書評に見る「本書は、第一次世界大戦の源流に迫る書物の中で最も優れたものであると同時に、明晰で知的冒険に富んだ歴史叙述がどのように書かれるべきであるか、との模範をも示す」(Thomas Lacquer, "Some Damn Foolish Thing," *London Review of Books*, 2013年12月5日、<http://www.lrb.co.uk/v35/n23/thomas-lacquer/some-damn-foolish-thing>)

[2014年7月25日アクセス]とこの指摘は、的を射たものである。同書の日

本語訳が近日中に刊行されることを願う。



豆知識

目を大切に!

長時間パソコンや携帯電話を見たりすると、目はずっと緊張します。緊張が続くと疲労からピント調整ができなくなり、視界がぼやけてしまいます。眼精疲労を放っておくとVDTという病気にもなってしまいます。VDTとはVisual Display Terminalの頭文字を取ったもので、テクノストレス眼症とも呼ばれ、目だけでなく心にも影響を及ぼします。

予防にはパソコンなどのディスプレイを、照明が反射しない明るい場所に設置し、画面と目の距離は40~50cmに保つこと。ディスプレイを目線より下に設置すると、目が乾燥しにくくなります。そして必ず1時間に10~15分休憩し、その間軽い体操をしたり、遠くの風景を見たり、目をマッサージすることも予防効果があります。



叡智が世界をつなぐ



上智大学
SOPHIA UNIVERSITY

上智大学図書館だより No. 18

発行所 上智大学図書館
〒102-8554
東京都千代田区紀尾井町 7-1
TEL: 03-3238-3510
FAX: 03-3238-3139
発行日 2014年10月1日
印刷 三鈴印刷株式会社
TEL: 03-5276-0811